

中国人中上級日本語学習者の作文における漢語の使用について

——文体・書き手の性別に注目して——

劉 玲／北京師範大学

choule_liliu@163.com

李 琳／北京師範大学

302900302@qq.com

0 問題提起と本稿の課題

日本語の語彙について、語の出自により、普通、漢語・和語・外来語の三種に分類される。また、この三種のうちどれか二つでまたは二つ以上で組み合わせたいわゆる混種語がある。そのうち、漢語は中国人学習者にとって習得しやすそうだが、意外と難しいところがあり、これまで重要視されてきた。ただ、後述するように、先行研究では、中日同形語や漢語サ変動詞といった一部の漢語について、文法的にまたは意味的に正用か誤用か、また、その原因は何かといった問題に関するものが多い。

実は、漢語を含め、語種の使用は、時代により、また、文章のジャンルによって違っている。漢語についてみると、基本的に漢語を使わない和歌集である『万葉集』『古今集』『後撰集』では、異なり語数でも延べ語数でも 0.0%～0.3%しかないのに対して、いわゆる和漢混淆文である『大鏡』『方丈記』『徒然草』では、いずれも異なり語数は 20%～28%となり、延べ語数は 10.0%～16.0%となる（林大ほか〈1982〉172 ぺ「古典文学作品における漢語の比率の変化」による）。また、現代語の場合、たとえば、新聞雑誌においては、漢語は、異なり語数では、その占める割合が最も高く、47.5%に達しているが、延べ語数では 41.3%と下がり、和語（53.9%）を下まわっている（同林大ほか〈1982〉62 ぺ「現代の語種の分布」による）。最近になると、一般の小型国語辞書の場合をみると、たとえば『新選国語辞典（第八版）』（2002）において、漢語 49.1%（35928 語）、和語 33.8%（24708 語）、外来語 8.8%（6415 語）と混種語 8.4%（6130 語）の割合となり（沖森卓也ほか〈2006〉71 ぺ「現代語の語種分布」による）、日常に使用

される漢語の種類は前より増えたと見られる。

もちろん、中日同形語や漢語サ変動詞の習得は中国人学習者として特に注目すべき問題である。しかし、そういった一部の漢語について文法的にまたは意味的に正しく理解し、また正しく使えただけでは、日本語らしい日本語を話したり書いたりすることにはならない。なぜなら、文法的にまたは意味的に言う正用か誤用という問題とは別に、さきに述べたように、日本語の文章においてどれほど漢語が使用されているか（どれほど漢語を使用してよいか）という問題があり、漢語の使用の状況についてある程度把握しておくことが必要だからと考える。つまり、学習者にとって、個々の語またはある一グループの語の習得が大切である一方で、日本語の文章のあるべき姿について把握することも大切であろう。

したがって、本稿では、中国人日本語学習者によって産出された作文における漢語使用の状況について調べ、それを日本語母語話者の作文における漢語の使用の状況に比較することを通して、学習者の作文における漢語の使用上の問題点を指摘してみたい。なお、今回、主として中上級の日本語学習者を対象にする。また、主として文体（ダ・デアル体の文章かデス・マス体の文章）と書き手の性別（男性か女性か）によって漢語の使用上違いがあろうことを念頭に入れて観察する。

以下、1節では、先行研究についてまとめる。2節では、調査資料と調査対象について述べる。3節では、データ収集のし方について紹介する。4節では、学習者の作文における漢語の使用状況と母語話者の作文における漢語の使用状況について調べ、その上で両者の異同について検討して、学習者の作文における漢語の使用上の問題点を指摘する。5節では、本稿の要点についてまとめる。

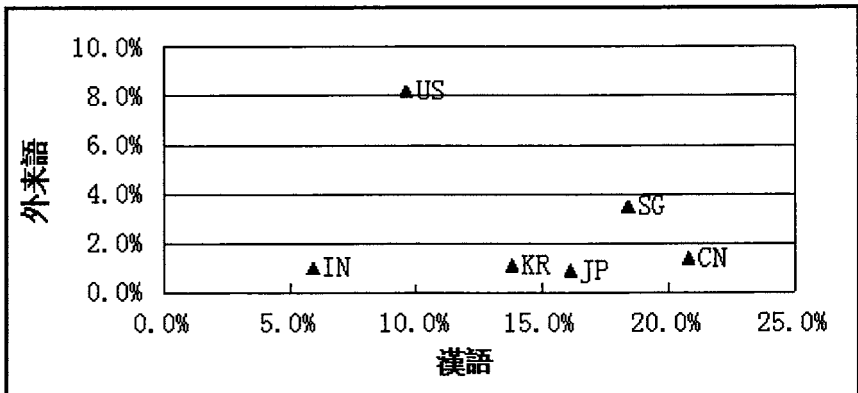
1 先行研究

さきに述べたように、漢語の習得に関しては、これまで、中日同形語や漢語サ変動詞の習得に関する研究がほとんどである。最近の研究を掲げると、たとえば、小森和子ほか（2014）では、学習者 238 名を対象にして行った漢字語テストと語彙総合テストによって、中日同形語の習得に及ぼす母語の影響を検討して、同形語の中国語独自義は日本語に転移

しやすく、その誤りは語彙知識が豊富な学習者でも気づきにくい傾向があるなど、中国語独自義の転移の諸相について観察した。李愛華(2006)では、中日同形語の意味習得に注目し、質問紙を用いて調査することを通して、中国語と日本語における意味上の相違によって分類された5タイプ中、学習者にとって、どれが習得しやすく、また、どれが習得しにくいかを明らかにした。胡偉芬(2013)では、中日同形の漢語サ変動詞に注目して、そうしたサ変動詞の習得の過程で常に母語による干渉を受けることを指摘した。付立民(2009)では、やはり中日同形の漢語サ変動詞を中心に、学習者の作文と学習者に対するアンケート調査を通して、サ変動詞の使用状況および品詞性や意味などにおける誤用の状況を明らかにした。

本稿の議論に最もかかわる論考として、胡曉睿(2012)が挙げられる。同著では、学習者の作文における漢語の使用について、学習者による日本語作文のデータベースを利用し、日本語母語話者と中国人・韓国人・シンガポール人・アメリカ人・インド人学習者が日本語で書いた同一テーマの作文(各10編合計60編)を調査の資料として、漢語の使用率を調べた。同著に示す次の図によれば、日本語母語話者の場合は16%強で、中国人学習者の場合は21%弱であると見られ、中国人学習者は母語話者より漢語を多く使用することがわかる。ただ、同著ではそれ以上深く議論していない。

図 各国における漢字表記の漢語と外来語の使用率の散布図



(※横軸は漢語の使用率で、縦軸は外来語の使用率である)

2 調査資料と調査対象

本稿で使用する調査の資料である『大滝幸子科研費作成・Sachiko-Rin』は、金沢大学の大滝幸子氏をはじめとする研究グループによって開発された作文コーパスである。このコーパスには、次の表 1 に示す十のテーマで書かれた日本語の作文（1660 篇）と中国語の作文（1660 篇）をおよそ 3320 篇収めている。これらの作文は日本語母語話者（中国語履修者）82 名と中国人日本語学習者 84 名によって書かれており、書き手（166 名）はこの十のテーマで日本語作文と中国語作文を一篇ずつ書いている。

表 1 作文のテーマ一覧

世界平和について	国のお正月
中日の経済関係について	中国人と日本人の異同について
私の家族	私の故郷
私の親友	私の大学
～を読んで	～を見て

本稿では、そのうちの「世界平和について」・「中国人と日本人の異同について」・「私の親友」の三つのテーマ^(註1)で書かれた作文のうち、学習者と母語話者それぞれ 8 名（うち男女各 4 名）のもの、あわせて 48 篇を調査資料とする。その際、表 2 に示したように、書き手の性別と年齢、及びその作文の文体について、できるだけバランスがとれるよう配慮した。表中、学習者の場合（CN）に、「45/22 歳/江蘇省」とあるのは、「本稿で使用するコーパスにおいて当該作文に付けられた番号/書き手の年齢/出身地」を示し、母語話者の場合（JP）についても同様である。また、『国際日本語能力試験』一級か二級を目安に、中上級として考えて、研究の対象を選ぶ。一級合格者に N1 と、また、二級合格者に N2 と記す。その作文はデス・マス体であれば、△印をつけ、ダ・デアル体であれば、○印をつける。

表2 書き手に関する情報一覧

	女性	男性
学習者の場合 (CN)	45/22 歳/江蘇省/N2△ 73/22 歳/北京/N2△ 7/21 歳/黒龍江省/N1○ 23/22 歳/福建省/N1○	54/22 歳/湖南省/N2△ 80/22 歳/吉林省/N2△ 22/22 歳/広東省/N1○ 40/19 歳/湖北省/N1○
母語話者の場合 (JP)	3/21 歳/兵庫県△ 11/21 歳/広島県△ 15/20 歳/滋賀県○ 22/21 歳/大阪○	6/21 歳/東京都△ 13/19 歳/奈良県△ 56/20 歳/富山県○ 65/20 歳/京都府○

このように、調査の対象となった 48 篇の作文中、学習者によるものは 24 篇を含み、上記の三つのテーマでそれぞれ 8 篇ある。また、一テーマで書かれた 8 篇中、女性によるデス・マス体とダ・デアル体のものをそれぞれ 2 篇と、男性によるデス・マス体とダ・デアル体のものを 2 篇含む。つまり、24 篇中、女性によるデス・マス体とダ・デアル体は各 6 篇と、男性によるデス・マス体とダ・デアル体は各 6 篇を含むことになる。母語話者によるものの場合は、これと同様である。

3 データ収集のし方

さきに述べた調査の対象となる 48 篇の作文について、一つ一つその作文に使われる名詞・動詞・形容詞・副詞の四種の漢語に注目して、それぞれの異なり語数と延べ語数を調べ、データを作成する。なお、場合によって次のように処理する。

a. 漢語として考えられるもの

その語が漢語かどうかについて、書き手の語感を尊重して、語源的漢語と語感的漢語とを区別すべきだが、書き手の語感を明らかにすることは容易ではない。そのため、基本的に、字音で読み、漢字で表記される語を漢語として考えるが、判断しにくい場合に『新潮現代国語辞典（第二版）』（山田俊雄・白藤礼幸・築島裕・奥田勲編、新潮社 2000 年）を参照にする。なお、若干、かな書きの漢語を含むことにする。

b. 複数の読みをもつ語

少数、読みによって漢語と和語のどちらかに分類されるものがあるが、状況に応じて、適宜に処理した。たとえば、「毎年」を「マイネン」で読むと、漢語に分類される。一方、「マイトシ」と読むと、混種語に分類される。次の文において、デス・マス体で書かれた、「私の親友」という日常的な話であり、全体としてやわらかい感じの文であるため、漢語（「マイネン」）でなく、「マイトシ」という読みを認めておく。

- (1) いつも彼女に助けられている私ですが彼女が毎年私の誕生日にくれる手紙には私への感謝の言葉が書いてあります。（「私の親友」JP11 番）^(注2)

c. 品詞性

品詞について、『角川新国語辞典』（吉川泰雄・山田俊雄編、角川書店 1981 年）など小型国語辞書を参考にする。いくつもの品詞性をもつ場合、文中における使い方によって判断することがある。たとえば、「不安」については、(2)では名詞として、(3)では形容詞としてみておく。同様に、「存在」については、(4)では名詞として、(5)では動詞として見ておく。

- (2) 戦争や災害などがなく、不安を感じないで生活できる状態。（「世界平和について」CN73 番）

- (3) 民衆たちは不安な社会に生活したくないで文句や反抗心をこれからも生みやすいと思います。（「世界平和について」CN73 番）

- (4) 別れてから初めて彼女は私にとって、もう家族のような存在になると感じた。（「私の親友」CN23 番）

- (5) しかし、局部の地区では、戦争とか武装衝突とかはまだ存在している。（「世界平和について」CN40 番）

d. 単独でなく、何かの表現の中で使われているもの

次に見る「勉強の面」や「この点から」などのように、少数、単独で使われていないものも対象とする。

- (6) 勉強の面ではお互いに助けあっていた。彼女は理系が得意で、私は文系が得意なので、テスト前とかはよく一緒に勉強していた。（「私の親友」JP22 番）

- (7) この点から言えば、大学生としてほとんどの私たちは、世界平和に大いに役に立たなくても、少なくとも戦争を起こすのを反対す

るという意識を持つべきである。(「世界平和について」CN7 番)

e. ミスや誤用、または、不自然な表現

ミスや誤用について、使用者の意図が推測される場合、調査の対象とする。たとえば、次に掲げる「直面しかことない」というところは「直面したことない」のミスであり、「感じを学び」とあるところは、「漢字を学び」のミスであろうと考えられるので、「直面した(直面する)」を動詞の類に、「漢字」を名詞の類に入れておく。同様に、「真剣しなくてもいい」とあるところは、「真剣にやらなくても」の誤用と考えられるので、「真剣する」として動詞の類に入れておく。また、「自然資源不足」は、あまり自然な表現ではないが、これはおそらく(11)に見える「水不足」や(12)に見える「栄養不足」といった言い方に倣って作られたと考えられるので、「水不足」や「栄養不足」と同様に扱っておく。

(8) しかし、やはり戦争に直面しかことないから、関心を持たないのもおかしくないでしょう。(「世界平和について」CN7 番)

(9) 日本は昔、中国から感じを学び今でもずっと使われ続けています。
(「中国人と日本人の異同について」JP6 番)

(10) 「机も拭いたじゃない! そんなに真剣しなくてもいいよ」(「私の親友」CN7 番)

(11) 実は、中国にも資源不足だと思います。水不足、電力資源、自然資源不足な問題もあります。(「中国人と日本人の異同について」CN73 番)

(12) 食糧不足で栄養不足になり、餓死や病気になってしまう…。
(「世界平和について」CN45 番)

f. 人名・地名・国名などの固有名詞の類および専門的な用語の類

これらは研究の対象としない。たとえば、次に見える「大阪」や「広島」は地名で、「中国語」「太極拳」「歯科衛生士」などは専門的な用語としてしておく。

(13) 私は大阪で中国語、彼女は広島で歯科衛生士になる勉強を頑張っています。(「私の親友」JP11 番)

(14) 早朝にはみんな太極拳を打っていたり、歌を歌ったりしている。(「中国人と日本人の異同について」JP22 番)

g. 慣用句または慣用的な表現の中に使われているもの

これらは研究の対象としない。たとえば、「気」はそもそも名詞として使われるが、「気を使う」として現れる場合は、対象としない。また、「左右」も「銘」も名詞として使われるが、「左右の銘」として現れる場合は、対象としない。

(15) でも、どこにいても、私たちはきっとお互いに相手のことに気を使って、相手の無事を祈っていくと分かってから、別れもそれほど悲しくないと思う。(「私の親友」CN23 番)

(16) 「女の子をもっと美しくに」という言葉はリナちゃんの左右の銘です。(「私の親友」CN45 番)

4 調査と分析

前節で述べたデータ収集の仕方によって、学習者の作文(24 篇)および母語話者の作文(24 篇)における漢語の使用について、それぞれ文体と性別の二点から検討する。その上、母語話者と比較することを通して、学習者の作文における漢語の使用上の問題点を指摘してみる。その際、3 節で述べたとおり、名詞・動詞・形容詞・副詞に注目して調べる。その結果は、後掲する表 3 と表 5 のようになる。表 3 は学習者の作文における漢語の使用状況で、表 5 は母語話者の作文における漢語の使用状況である。詳細については附表 1~4 を参照されたいが、一回のみの調査で、ミスがあろうことを断っておきたい。

なお、表中における表示の仕方について、以下に表 3 を例にして説明する。

- ・ 「89/121」とあるのは「異なり語数 89/延べ語数 121」を示す。また、「1.36 回」は語の平均使用回数、すなわち語の使用頻度を示す。
- ・ 前掲(2)と(3)に見る「不安」のように、それぞれ名詞と形容詞に収めるが、「計」の場合は、異なり語数を 1 とする^(注3)。
- ・ 「計 1」の列は、それぞれ「女性による、ダ・デアル体」、「女性による、デス・マス体」、「男性による、ダ・デアル体」と「男性による、デス・マス体」の四つのケースの異なり語数、延べ語

数および語の使用頻度を示す。「計 2」の列は、それぞれ女性による二ケースをあわせてみた場合つまり女性の場合と、男性による二ケースをあわせてみた場合つまり男性の場合を示す。「計 3」の列は、以上四ケースをあわせてみた場合を示す。

4-1 学習者の作文における漢語の使用状況

さて、表 3 によれば、どのようなことがわかるだろうか。

表 3 学習者の作文における漢語の使用

	女性の場合		男性の場合	
	ダ・デア ル体	デス・マ ス体	ダ・デア ル体	デス・マ ス体
名詞	89/121 1.36 回	136/220 1.62 回	120/158 1.32 回	104/211 2.03 回
動詞	24/28 1.17 回	31/38 1.23 回	28/30 1.07 回	24/30 1.25 回
形容 詞	7/7 1.0 回	19/22 1.16 回	8/11 1.375 回	16/18 1.125 回
副詞	5/5 1.0 回	6/8 1.33 回	8/11 1.375 回	8/10 1.25 回
計 1	123/161 1.31 回	188/288 1.53 回	162/210 1.296 回	147/269 1.83 回
計 2	286/449、1.57 回		285/479、1.68 回	
計 3	502/928、1.85 回			

まず、文体の面から観察してみる。「計 1」に示すように、女性の場合、異なり語数では、ダ・デア体 (123) はデス・マス体 (188) を 65 語ほど下回り、前者は後者の三分の二しか及ばないと見られ、デス・マス体における漢語の種類 (バリエーション) はダ・デア体においてよりはるかに多いことがわかる。延べ語数では、ダ・デア体 (161) はデス・マス体 (288) を 127 語ほど下回り、前者は後者の五分の三にも至っていないと見られ、デス・マス体における漢語の使用度数はダ・デア体を大幅に超えることがわかる。しかも、名詞・動詞・形容詞・副詞の品詞別についてみても、一貫して同じような状況である。筆者の予想外の結果である。一方、男性の場合は、延べ語数では、ダ・デア体 (210) はデス・マス体 (269) を 59 語ほど下回り、前者は後者の五分の四弱

で、女性の場合とほぼ同じ状況である。異なり語数では、延べ語数とは逆に、ダ・デアル体 (162) はやや多く、デス・マス体 (147) を 15 語ほど上まわる。ただ、品詞別においては、異なり語数でも延べ語数でも一貫した状況ではない。

つまり、デス・マス体における漢語の使用度数はダ・デアル体においてより多いという傾向が、女性の場合も男性の場合もほぼ同様に見られる。一方、デス・マス体において使われる漢語の種類はダ・デアル体においてより多いという傾向が女性の場合に見られるが、男性の場合はこれと逆な傾向である。いずれにしても、文体によって漢語の使用上、違いがあるということが明らかになっている。

次に、性別の面から観察してみる。「計 2」に示すように、異なり語数では、女性の場合 (286 語) と男性の場合 (285 語) はほとんど変わらず、男女が使われる漢語の種類はほぼ同じぐらいだということがわかる。延べ語数では、男性 (479 語) のほうは女性 (449 語) を 30 語ほど上まわり、男性によって使われる漢語の使用度数は女性よりやや多いことがわかる。また、実際、「計 2」に示すように男女のそれぞれの異なり語数 (女性 286 語と男性 285 語をあわせれば 571 語となる) と、「計 3」に示す男女をあわせた場合の異なり語数 (502 語) によって算出すれば (算出のし方は注 3 による)、女性の場合と男性の場合に共通して使われるのはただ 69 語しかない。言い換えれば、女性の場合に使われる漢語のうち、四分の三ほど (286 語中 217 語) は男性の場合と違うものであり、同様に、男性の場合に使われる漢語のうち、四分の三ほど (285 語中 216 語) は女性の場合と違うものである。このように、男女に共通して使われる漢語が少数存在する一方で、男女のどちらかにのみ使われる漢語が多数存在しており、性別によって使用される漢語そのものの種類が大きく違っているということがわかる。品詞別の内訳は表 4 に示すとおりである (二つの品詞にまたがる場合、適宜どれか一つに収めた。詳細は附表 5 を参照されたい)。

表 4 学習者が男女ともに使用される語

名詞	動詞	形容詞	副詞	計
48/295	11/34	4/9	6/21	69/359
6. 15 回	3. 09 回	2. 25 回	3. 5 回	5. 20 回

つまり、男女が使われる漢語の種類はほぼ同じぐらいだが、実際に男女に共通して使われる語が少数しかなく、性別による違いは依然として存在する。また、男性の場合における漢語の使用度数は女性の場合においてよりやや多いという傾向が見られる。このように、性別によって漢語の使用上、違いがあるということが明らかになっている。

最後に、全体から語の使用頻度についてみると、「計2」で示されるように、男性の場合（1.68回）は女性の場合（1.57回）をわずかに0.11回上まわる。また、「計1」で示されるように、デス・マス体では男性の場合（1.83回）は女性の場合（1.53回）を0.30回上まわるが、ダ・デア体では男性の場合（1.31回）は女性の場合（1.296回）をわずかに0.014回上まわる。このように、語の使用頻度では、いずれの場合でも0.30回かそれより以下の開きしか見られず、文体や性別による違いはほとんど認められない。

4-2 母語話者の作文における漢語の使用状況

さきに学習者の作文における漢語の使用状況について見てきた。次に、表5に基づいて、母語話者の作文における漢語の使用状況について見ていきたい。

表5 母語話者の作文における漢語の使用

	女性の場合		男性の場合	
	ダ・デア ル体	デス・マ ス体	ダ・デア ル体	デス・マ ス体
名詞	94/122 1.298 回	59/88 1.49 回	72/127 1.76 回	44/78 1.77 回
動詞	10/14 1.4 回	18/21 1.17 回	14/27 1.93 回	12/16 1.33 回
形 容 詞	12/13 1.08 回	14/20 1.43 回	12/19 1.58 回	5/8 1.60 回
副詞	7/10 1.43 回	6/8 1.33 回	5/9 1.80 回	4/7 1.75 回
計 1	121/159 1.31 回	96/137 1.43 回	100/182 1.82 回	60/109 1.816 回
計 2	195/296、1.52 回		135/291、2.16 回	
計 3	290/587、2.02 回			

まず、文体の面から観察してみる。「計 1」によれば、女性の場合は、異なり語数ではダ・デアル体 (121) はデス・マス体 (96) を 25 語ほど上まわり、後者は前者の五分の四弱であり、延べ語数ではダ・デアル体 (159) はデス・マス体 (137) を 22 語ほど上まわり、後者は前者の五分の四強であるように、ダ・デアル体における漢語の種類も漢語の使用度数もデス・マス体においてよりやや多いということがわかる。ただ、品詞別においては、一貫した状況ではない。一方、男性の場合は、異なり語数ではデス・マス体 (60) はダ・デアル体 (100) の三分の二にも及ばず、延べ語数ではデス・マス体 (109) はダ・デアル体 (182) の五分の三しかないというように、ダ・デアル体における漢語の種類も漢語の使用度数もデス・マス体においてより多いということがわかる。品詞別においても、一貫した状況が見える。筆者の予想どおりの結果である。

つまり、ダ・デアル体における漢語の種類も漢語の使用度数もデス・マス体においてよりやや多いという傾向が、女性の場合も男性の場合も整然として存在しており、男性の場合はより顕著に見える。このように、文体によって漢語の使用上違いがあるということが明らかになっている。

次に、性別の面から観察してみる。「計 2」に示すように、異なり語数では、男性の場合 (135) は女性の場合 (195) の三分の二ほどで、女性が使われる漢語の種類は男性より多いことがわかる。これに対して、延べ語数では、女性の場合 (296) と男性の場合 (291) はそれほど変わらず、漢語の使用度数においては性別による違いがないことがわかる。ただ、実際、「計 2」に示すように男女のそれぞれの異なり語数 (女性 195 語と男性 135 語をあわせれば 330 語となる) と、「計 3」に示す男女をあわせた場合の異なり語数 (290 語) によって算出すれば (算出のし方は注 3 を参照)、女性の場合と男性の場合に共通して使われるのはただ 40 語しかない。言い換えれば、女性の場合に使われる漢語のうち、五分の四ほど (195 語中 155 語) は男性の場合と違うものであり、また、男性の場合に使われる漢語のうち、三分の二ほど (135 語中 95 語) は女性の場合と違うものである。このように、男女に共通して使われる漢語が少数存在する一方で、男女のどちらかにのみ使われる漢語が多数存在しており、性別によって使用される漢語そのものが大きく違っているということがわかる。品詞別の内訳は表 6 に示すとおりである (詳細は附表 6 を参照

されたい)。

表 6 母語話者が男女ともに使用される語

名詞	動詞	形容詞	副詞	計
27/181	5/32	3/6	5/21	40/240
6.70	6.4	2.0	4.2	6.00 回

つまり、男女における漢語の使用度数はほぼ同じぐらいだが、実際に男女に共通して使われる語が少数しかない。また、女性の場合における漢語の種類は男性の場合においてより多いという傾向が窺える。このように、性別によって漢語の使用上の違いがあるということが明らかになっている。

最後に、全体から語の使用頻度についてみると、「計 2」で示されるように、男性の場合 (2.16 回) は女性の場合 (1.52 回) を 0.64 回上まわる。一方、「計 1」で示されるように、ダ・デアル体では、男性の場合 (1.82 回) は女性の場合 (1.31 回) を 0.51 回上まわり、デス・マス体では、やはり男性の場合 (1.816 回) は女性の場合 (1.43 回) を 0.386 回上まわる。このように、語の使用頻度では、いずれの場合でも 0.30 回～0.65 回の開きしかなく、1.00 回も未満であり、文体や性別による違いは認められるほどではない。

4-3 学習者の作文における漢語の使用上の問題点

以下、4-1 と 4-2 における議論に基づいて、学習者の作文における漢語の使用状況は母語話者のそれに一致しているところと一致していないところについて検討し、学習者の作文における漢語の使用上の問題点を指摘してみたい。

学習者の場合は母語話者の場合に一致するところが三つ挙げられる。一つ目に、表 3 と表 5 によれば、文体・性別を問わず、異なり語数でも延べ語数でも、一貫して名詞がその他を大幅に上まわっており、明らかに、名詞が一番多く使われている。二つ目に、男女に共通して使われる語が少数のみで、男女のどちらかにのみ使われる漢語が多数であるように、男女に独自に使用する漢語が存在する。三つ目に、語の使用頻度については、ダ・デアル体では学習者 (1.303 回) は母語話者 (1.565 回)

(注4)を0.262回下まわり、また、デス・マス体では学習者(1.68回)と母語話者(1.623回)がほぼ同じくらいである。女性の場合では学習者(1.57回)と母語話者(1.52回)はほぼ同じくらいであり、男性の場合では学習者(1.68回)は母語話者(2.16回)を0.48回下まわる。つまり、文体の面からみても性別の面からみても、語の使用頻度において、学習者と母語話者はほぼ同じくらいか、0.50回未満の開きしかないというように、同一のレベルの状況になっている。

一方、学習者の場合は母語話者の場合に一致しないところが以下のようにまとめられる。ひとまず、母語話者の作文における漢語の使用状況を一つの標準として考えれば、両者の違いは、いわば学習者の作文における漢語の使用上の問題点として考えられよう。以下のようになる。

一つ目に、さきに述べたように、語の使用頻度では学習者と母語話者の間にそれほど相違しない一方、「計3」によってわかるように、異なり語数でも延べ語数でも、学習者の場合(502/928)は母語話者の場合(290/587)を大きく上まわっている^(註5)。このように、全体からして、学習者は母語話者に比べ、過剰に漢語を使っているといえよう。

二つ目に、文体によって漢語の使用上違いがあるということは学習者の場合にも母語話者の場合にも存するが、実際、母語話者の場合では、漢語の使用度数にしても漢語の種類にしても、ダ・デアル体においてはデス・マス体においてより多い傾向であるのに対して、学習者の場合では、これに反する傾向である。このように、学習者はダ・デアル体の文章とデス・マス体の文章における漢語の使用上の違いについて、それほど把握していないようであるといえよう。

三つ目に、性別の面についてみると、母語話者の作文では、漢語の使用度数においては男女の性別による違いが見られないのに対して、学習者の作文では、男性の場合における漢語の使用度数は女性の場合においてよりやや多い。また、母語話者の場合では、女性が使用される漢語の種類は男性より多く、女性の作文において漢語がよりバリエーションに富んでいるのに対して、学習者の場合では、男女が使われる漢語の種類はほぼ同じくらいである。

5 まとめ

本稿では、先行研究においてそれほど注目されていない学習者の作文における漢語使用の状況について、主として、文体の面と性別の面をめぐって、学習者と母語話者の異同について検討し、学習者の作文における漢語使用の問題点について指摘してみた。ただ、どうしてそのような状況になったかについて、検討する余裕はなかった。

本稿の要点をまとめると、以下ようになる。

①学習者の作文においては、文体・性別を問わず漢語名詞を最も多く使用すること、男女に独自に使用する漢語が存在すること、漢語の使用頻度の三点において、母語話者の作文における状況に近いものと見られる。

②学習者の作文においては、全体からして漢語の過剰使用という点、漢語の使用度数にしても漢語の種類にしてもデス・マス体においてはダ・デアル体においてより多いという母語話者の場合に反する傾向である点、男性は女性より漢語の使用度数がやや多く、また、漢語の種類において男女の違いはほとんど見られないという母語話者の場合に相違する点は、学習者の作文における漢語の使用上の問題点として指摘できる。

ただ、今回はサンプリング調査であり、そういった限られた資料から観察された漢語の使用状況は学習者一般にまたは母語話者一般に広げることができるとは限らないため、これを標準にして学習者の漢語の使用上の問題について指摘するのは、説得力に欠くことになると懸念される。それにしても、現場の日本語教師として、中日同形語を区別したり漢語を正しく使ったりするというような問題にだけ関心をもつのでなく、文体により性別により、日本語の文章における漢語の使用状況（ないし語種使用の状況）が違うことに留意すべきであり、そして、学習者にそれを意識できるように指導すべきだろうことを示唆されよう。

一方、文体を問わず、筆者は、母語話者でも、男性は断然漢語を多く使うだろうという印象をもっていた。ところが、興味深いのは、母語話者の作文において漢語の使用度数では男女の性別による違いが見られないこと、また、女性が使用される漢語の種類は男性よりもバリエーションに富むことの二点である。これは20歳前後の学生の文章にだけ見られ

ることだろうか。あるいは、世代によってまた違うことだろうか。日本語教育の現場に立つ教師として、考えさせられる点が多い。今後の課題としておきたい。

注1 どのようなテーマ選ぶかを考えたには特に積極的な理由がない。処理できる範囲内で、中国人が小学校から書くような「私の～」のようなテーマを一つ選び、また、内容的に誰でも書けそうなテーマを選ぶと考えただけである。

注2 「11 番」などは、本稿で使用する作文コーパス『大滝幸子科研費作成・Sachiko-Rin』において付けられた番号である。検索の便を考えて、そのまま表示した。

注3 たとえば、「計 1」について、その異なり語数の算出のし方について次のようになる。「女性による、ダ・デアル体」では、名詞 89、動詞 24、形容詞 7、副詞 5 とあり、異なり語数 125 となるが、うち「生活」はそれぞれ名詞と動詞の両方に 1 例が見られるので、延べ語数は 2 とし、異なり語数は 1 とした。もう一つ、「節約」も「生活」と同様に処理した。そのため、異なり語数は 125 でなく、123 となった。「計 2」と「計 3」における異なり語数の算出のし方は、これと同じである。なお、「生活」や「節約」のように二つの品詞性をもつ語について、ここに一々掲げない。附表 1～4 を参照されたい。

注4 語の使用頻度について、ダ・デアル体では学習者の場合は 1.303 回であると算出した。これは、表 3「計 1」に示す女性 (1.31 回) と男性 (1.296 回) の両方の平均値である。母語話者の場合についても同じ方法で算出した。

注5 厳密には、学習者の作文における漢語の占める割合と母語話者の作文における漢語の占める割合を比較して判断すべきだ。ただ、先行研究において紹介した胡曉睿 (2012) の調査結果に全く同一の結果にはならないが、学習者は母語話者より漢語を多く使用する点において、胡曉睿 (2012) に一致している。

参考文献

- 沖森卓也・木村義之・陳力衛・山本真吾 (2006) 『図解日本語』 三省堂
- 国立国語研究所報告 25 (1964) 『現代雑誌九十種の用語用字 (3) 分析』 秀英出版
- 小森和子・玉岡賀津雄・斉藤信浩・宮岡弥生「第二言語として日本語を学ぶ中国語話者の日本語の漢字語の習得に関する考察」『中国語話者のための日本語教育研究』第5号、中国語話者のための日本語教育研究会編、日中言語文化出版社
- 玉村 文郎 (1984) 『日本語教育指導参考書 12 語彙の研究と教育 (上・下)』 国立国語研究所
- 林大・宮島達夫・野村雅昭他 (1982) 『図説日本語』 角川書店
- 前田富祺 (1984) 「語種構造の漸移相」『日本語学』9月号 (特集・語種論) 明治書院
- 胡 偉芬 (2013) 「日本語の漢語の習得に関する研究——漢語サ変動詞を中心に」大連海事大学外国語学及応用言語学 2013 年度修士論文 (「中国知網」による)
- 胡 曉睿 (2012) 「日本語学習者の作文における漢語の使用について」『第九回国際日本語教育・日本研究シンポジウム予稿集原稿』研究発表：日本語教育／言語習得 #1200396
- 付 立民 (2009) 「日本語学習者の「サ変動詞」の習得に関する研究——中日同形のサ変動詞を中心に」大連理工大学外語学及応用言語学 2009 年度修士論文 (「中国知網」による)
- 李 愛華 (2006) 「中国人学習者による漢語の意味習得——日中同形語を対象に」『筑波大学地域研究』26号、筑波大学大学院地域研究研究科
- 劉 玲 (2008a) 「日本語専攻の基礎段階における外来語習得の現状」『アジア太平洋地域における日本語教育：第2巻』、香港日本語教育研究会
- 劉 玲・趙 燦 (2008b) 「調査分析各版『新明解国語辞典』外来語詞収録状況の変遷——給『高等院校日語專業基礎階段教学大綱』的若干参考」『日語教育与日本学研究論叢』第三輯、学苑出版社

附表

※表中における表示のし方：(1)アイウエオ順に掲げる。(2)サ変動詞について「～する」の形により、副詞はその作文に実際に使われる形により掲げ、名詞と形容詞については辞書形で掲げる。(3)数字は延べ語数で、1例のみの場合は特に示さない。(4)学習者の作文において、「開学一週間後」(附表1)や「両極局面」(附表2)などのように、若干誤用または不自然だろうと考えられる表現は使われているが、そのまま写す。

〈附表1〉中国人中上級日本語学習者：女性の場合

ダ・デアル体	
名詞：	意識 2、以上 2、一度、一部、一方、大勢、覚悟、家族、家庭、画面、環境、感情、関心 2、含蓄、機会、開学一週間後、90 世代、教室、経済上、現実的意味、行為、高校、高校一年生、高校三年、国際的関心、国土、国民、国防力、工場廃水、最近、昨夜、時間、資源 2、資源節約 2、資源節約家、資源量、自国 2、実感、自然資源、事実、実際、自分 3、宿題、授業、食事 2、新学期、新聞、侵略者、性格、生活、性質、世界平和 7、世界各地 2、世界征服、節約、戦争 10、千年、掃除、存在、大学、大学生、大部分、他人、短気、中学校、中学校時代 2、都合、電車、電話、道具、日本会社、日本文化、日本留学、悲劇、普通、雰囲気、平和 4、平和時代、民族、無事、迷惑 2、問題 2、友情、余裕、利益 2、理由、隣人、旅行、浪費家
動詞：	感じる、感触する、感動する、経験する、喧嘩する、譴責する、支援する、実現する 3、準備する、処分する、節約する 2、真剣する、推測する、生活する、接触する、卒業する、達成する、直面する、反対する、分別する、防衛する、包容する、留学する 2、連絡する
形容詞：	意識的、異質的、自然に、重要、内向的、不正、無意識的
副詞：	意外と、実は、全然、特に、突然
デス・マス体	
名詞：	悪性事件、安全、異議、意識、一度 2、一年、一歳、一方、意味 3、栄養不足、音楽 2、価格、解釈、海平面上昇、各宗教、核兵器 4、餓死、家族、学校 2、環境、環境保護、「環境保護」意識、感じ、共同、興味、危機感 2、疑問、経済 2、経済上、怪我、結果、化粧品、原因、現在 3、原子爆弾 2、国外環境、国内 3、国家、国家主権、国民、災害、最近 2、最後に、雑誌 3、事件 2、資源、自国、自然、自分 11、社会 2、社会環境、社会人、主義 2、宗教 5、宗教問題、住宅、主権侵犯、手段、状況、傷害、商品、状態 2、情報、食糧不足、食器、新型、信仰、信念、侵犯、心配、新品、親友 7、人類、数週間、性格 2、生活 6、政策 3、政治、政治戦争、生産力、世界

4、世界中、世界平和 2、責任感、石油、節約、節約意識、戦争 10、前提、宣伝、想像力、存在、大学、大学院生、秩序、中古商品 2、中古服 7、中古靴 2、中古品、中古店 4、地球温暖化、超越的存在、定義 2、電気 2、電力資源、電話、肉親 2、日用品 2、念頭、発展、反抗心、病気、不安 2、服 5、舞台、普段、文化、分裂、分類、兵器 3、平和 5、勉強、弁当、毎日、漫画 2、民衆、民族、民族紛争、目標、文句、問題 4、勇気、様子、四ヶ月間、歴史、話題
動詞： 解決する、感じる 2、協力する、干渉する、関心する、感心する、管理する、化粧する 2、減少する、参考する、実施する 2、主張する、実現する、重視する、使用する、生活する 3、創造する、尊敬する、注入する、提出する、廃止する、破壊する、被害する、勉強する 2、保障する、誘発する、用意する、利用する、了解する、理解する、練習する
形容詞： 安全、意外、きれい、勤勉、緊密、豪放、困難、残酷、資源不足、自然資源不足、順調、重度、親切、政治的、不安、不衛生、平和 4、水不足、有名
副詞： 一番、実は、絶対に、全然 2、同時に、特に 2

＜附表 2＞中国人中上級日本語学習者：男性の場合（「※普段」については、「普段」と「ふだん」の両方の表記が見られるので、漢字を代表の表記とし、（ ）内に仮名表記を記す）

ダ・デアル体
名詞： 一衣帯水、意識、一例、異同、一方、意味 2、宴会、恩恵、海鮮 2、外部、各自、核兵器、環境 3、環境問題 2、感じ、記憶、犠牲、記念用、規模、共有、局部、去年、距離、結果、現在、高校、高校一年、工場、後半、交流、国民、最高、災難、砂漠化、時期 2、自業自得、資源、自己紹介文、地獄、史上最大、時代 2、実家、支配下、自分 4、自分自身、習慣、主食、手段、趣味、授業中、主流、将来、食事 3、食物、初対面、親友 2、人類、数月間、正解、性格 2、成績、生物、世界 4、世界平和、世界大戦 2、接触、先生 2、戦争 7、前半、想像、台海問題、大陸国、他人、誕生日、地区、中国人、朝韓問題、地理条件、鉄、動乱、読書 3、独特、都市、内部 2、二十世紀 3、二次、人間 2、廃水、廃絶、発展、反対運動、百年、武器、復讐、武装衝突、普段 2（ふだん）、文化、文化間、変化、平和 3、平和時期、方法、本、摩擦、面、問題 3、目標、友情、理由、領土、両者、両国、両極局面、料理 2、料理流派、隣邦、歴史 2、六年、例、利益
動詞： 一致する、影響する、解決する、拡張する、確保する、感じる、歓談する、緊張する、形成する、混乱する、参加する、使用する、持参する、

中国人中上級日本語学習者の作文における漢語の使用について

処理する、植林する、心配する、説明する、絶する、卒業する、存在する2、挑発する2、排水する、罰する、発生する、発展する、勉強する、無視する、旅行する
形容詞： 外向的、活発、緊密、協力的、親切、代表的2、不思議、平和3
副詞： 一概に、同時に2、次第に2、絶対に、総体的に2、二度と、比較的に
デス・マス体
名詞： 愛16、愛情、1時間、一度、一面、一生、異文化、意味5、印象2、運行時刻表、映画、格差2、歌詞、学校、各国、各国政府、家族2、関係、感じ2、乾杯2、宮殿、教室、経済格差、怪我、喧嘩2、洪水、国民、孤独、災害、最初、最後に、市街、時刻表3、自然、自分6、試験4、師弟、習慣3、宗教、15分、渋滞、集団、執念、首席、将来、食事4、植物、女子学生3、試練2、親友2、生活3、政策、政治家、成績、政府、世界4、世界中3、世界平和9、戦争8、戦渦、態度、他人2、誕生日、地球、直前、程度、何度、何日後、日夜、人間2、必要、病気、表面、夫婦、服、「不公平」、普段、不調和、普通、文化、無辜、物理、武力、雰囲気、分析、平和4、勉強、民衆、民族、麺類、問題2、友情4、要因、要素、様子、四ヶ月、理解、留学生活、量2、料理3、隣人、連絡、65点、碗3
動詞： 愛する、感動する、期待する、喧嘩する、興奮する、交流する、賛成する、重視する、上達する、食事する2、信じる2、信服する、侵略する、接する、成長する2、生活する、相談する、退院する、努力する、入院する、発表する、分析する、理解する4、留学する
形容詞： 円熟、快活、貴重、綺麗2、残酷、正式、積極、不安定、不思議、不便、不愉快、平和2、変、便利、無関係、無邪気
副詞： 一番2、いったん、結局、実は、絶対、全然2、全部、非常に

〈附表3〉日本人母語話者：女性の場合

ダ・デアル体
名詞： 1回、意見、衣食住、以前2、一生、異同、映画、音楽、会長、会話、過去、関係2、季節関係、客、教育、寄付金、距離間、空気、権利、公園3、公園内、光景、高校2、交友、交流、娯楽、差、最大限、最低限、30、散歩、時間、実現2、姿勢、自分5、自身、宗教問題、終結、情熱、書籍、資料、人身売買、親友、人類、性格4、世界2、世界大戦、世界平和2、世代、接待、絶滅、戦争7、相談、早朝、第一步、大学、大学生、対極、体型、態度、大多数、大半、多民族、大陸、単一民族、中老年3、天災、動物、動植物、特徴、内戦、何分、2年後、犯罪、反面、貧困、悲惨さ、雰囲気、文

系、捕殺、平和 5、勉強、毎日、魅力、迷惑、(～の) 面、目標、友人、幼稚園 2、40 代、利益、理系、礼儀、連絡
動詞： 感じる 5、散歩する、紹介する、接する、選択する、卒業する、尊敬する、認識する、勉強する、理解する
形容詞： 確固、完全、開放的、過度、謙虚、好都合、正直、新鮮、大事、得意 2、不思議、平和
副詞： 一番 2、逆に 3、決して、最初に、当然、二度と、比較的
デス・マス体
名詞： 愛、一度、一回、一個人、飲食店 2、会話、学生、感謝 2、教育 2、距離、傾向、ケンカ 2、現在、現実、権力行使、高校時代、高校卒業後、際、資源、習慣、事実、自分 2、社会的知識、宗教、宗教上、衝突、食事、信仰、真実、親友 3、数回、性格 4、生活、世界 7、世界平和 2、戦争 7、態度 2、他人、誕生日、地球、秩序、内容、21 歳、貧困 2、頻度、服、普段、普通、文化背景、部分 2、平和、勉強、本心 2、毎日、友人 2、幼稚園、理由 2、歴史、連絡
動詞： 安心する、意識する、活動する、感じる 3、共有する、構築する、実現する、進歩する、成長する、相談する、提供する、努力する、破滅する、判断する、勃発する、放棄する、抑圧する、理解する 2
形容詞： 安全 2、印象的、簡単、謙虚、性格的、重要 2、多趣味、直接的、必要、卑劣、不可能 2、無責任、平和 4、容易
副詞： 1 番に 3、一般的に、多々、当然、特に、頻繁に

〈附表 4〉日本人母語話者：男性の場合

ダ・デアル体
名詞： 安全、意見 2、一学生、一度、一年、一番、印象 2、外見、核、学部、核兵器、過去、関係 4、漢字、飢餓、危険性、気質、疑問、去年、距離、経験、敬語 3、敬意 3、幸福、最近、賛成 2、時間、死者、出身、授業 4、手段、紹介、初対面 4、親友 2、状態、冗談、性格、生活、世界 6、世界平和 5、専攻、戦争 9、第一印象、大学 2、態度 8、他人、地球上、中国留学、定義、停戦協定、程度、当初、図書館、特徴 2、人間、発言 2、春学期、犯罪、必要、表現方法、服装、雰囲気、紛争 2、平和 3、勉強 2、武器、問題 7、留学 2、留学生、理由、隣国、例
動詞： 解決する、感じる 3、紹介する 2、接する 5、相談する、存在する 5、痛感する、破棄する、発言する 3、発生する、勉強する、保有する、保障する、連絡する
形容詞： 重要 2、消極的、親密 2、慎重、積極的 3、丁寧 3、平等、複雑 2、

中国人中上級日本語学習者の作文における漢語の使用について

無礼講、友好的、利己的、流暢
副詞： 一番3、逆に2、最初2、事実、比較的
デス・マス体
名詞： 意味、核兵器、漢字2、感じ、軍隊、軍備、警戒心、言語、現地、国家、最近、殺人3、小学校、授業中、将来2、初対面、親友4、数人、世界3、世界平和7、世界中、性格、生活環境、戦争8、大学、大学生、中学生、努力家、動物2、人間5、犯罪2、服2、複数、文化3、勉強2、放課後、漫画、武器、唯一、留学、留学生2、歴史2、恋愛、連絡
動詞： 感じる3、企画する、喧嘩する2、交流する、参加する、紹介する、生活する2、存在する、入学する、発言する、勉強する、保持する
形容詞： 永遠、簡単、積極的、平和4、流暢
副詞： 1番、実際3、当然、比較的2

〈附表5〉中国人中上級日本語学習者：女性と男性に共通して使われる語

名詞： 意識4、一度3、一方2、意味10、核兵器5、家族4、学校3、環境5、感じ4、教室2、現在4、高校2、国民4、災害2、最後に2、資源4、自然3、自分24、手段2、宗教6、食事10、親友11、人類2、生活15、性格5、政策4、世界12、世界中4、世界平和19、接触2、戦争35、他人4、発展2、服6、普段4（ふだん）、普通2、雰囲気2、文化3、平和25、民衆2、民族3、目標2、問題11、友情6、理由2、歴史3、利益2、連絡2
動詞： 解決する2、喧嘩する4、重視する2、使用する2、心配する2、卒業する2、存在する4、勉強する5、理解6、留学する3、旅行する2
形容詞： 綺麗3、緊密2、残酷2、親切2
副詞： 一番3、実は4、絶対に3、一番3、全然5、同時に3

〈附表6〉日本人母語話者：女性と男性に共通して使われる語

名詞： 意見3、一度2、距離2、過去2、関係6、交流2、時間2、親友10、性格10、生活4、世界18、世界平和16、戦争31、大学4、大学生2、態度11、他人2、動物3、特徴3、犯罪4、服3、雰囲気2、平和18、勉強9、理由3、歴史3、連絡4
動詞： 感じる14、喧嘩・ケンカする4、紹介する5、接する6、相談する3
形容詞： 安全2、簡単2、必要2
副詞： 一番6、逆に5、最初に3、当然3、比較的4

〈付記〉本稿の執筆にあたって、『大滝幸子科研費作成・Sachiko-Rin』を使わせていただくことができた。大滝幸子氏に心より感謝を申し上げたい。